

様式1 平成 30年度 山梨県立富士見支援学校旭分校学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針 子どもたちの病状に配慮し、健康の回復を図りながら義務教育における学習空白を補完するとともに、社会の中で人と関わりながら生きていくための力を育む。

山梨県立富士見支援学校旭分校 校長 石原 一彦

本年度の重点目標	1 児童生徒の実態に即した支援や学習指導を行い、一人一人の確かな学力を育む。
	2 健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、社会に参加する態度を育成する。
	3 病弱児教育に関する専門性の充実を図り、信頼される学校づくりを行う。

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価						
番号	評価項目	本年度の重点目標 具体的方策	方策の評価指標	年度末評価(3月13日現在)		
				自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	児童生徒の実態に即した支援や学習指導を行い、一人一人の確かな学力を育む。	合理的配慮を踏まえた個別的教育支援計画を作成し、個別の指導計画に基づいた学習の状況や結果を適切に評価し、指導の改善を図る。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	各学期の始めに各教科・自立活動と指導計画を職員間で共通理解して指導に当たることができた。学期の途中の転入の場合は転入1ヶ月後を目処に指導計画を作成して共通理解を図った。評価についても同様に会議をもち適切な評価に努めた。個別的教育支援計画は2名作成した。	A	学期末に在籍しない短期の在籍生については評価には至らないが、前籍校へ 通信表の写しを送付するなどして、学習内容を引き継ぐ必要がある。学習内容等をどのように伝えるかを検討していく。
		ICT教材の活用や体験的活動など、指導法を工夫することにより、わかる喜びを実感できる授業を行い、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	各教科でパソコン教材、インターネット、パワーポイント等を活用した。学習指導においても基礎的・基本的な知識・技能の定着やわかる授業をめざして取り組み、概ね目標は達せられた。		大型液晶テレビの設置、アプリの活用などにより、ICT教材がより有効に活用されるようになった。各教科指導においても学習の発展として、体験的活動を組み入れていく必要がある
2	健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、社会に参加する態度を育成する。	教育課程に児童生徒の病態を考慮した系統的・体系的なキャリア教育を位置づけ、その充実を図る。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	段階別指導を踏まえ、個々の実態に即した自立活動の指導を行うことができた。学年ごとの進路集会を定期的実施することが難しかったが、実態に応じ適宜実施した。	B	キャリア教育の全体計画に基づき、様々な活動をキャリア教育の視点を踏まえ計画する。進路指導に関わる情報を整理し、時系列で意識する。前籍校からの情報提供など密な連携が必要になる。
		保健教育や道徳教育を通して、自他を大切にすることを育て、基本的な生活習慣を身につけさせる。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	児童生徒の健康管理指導、中学部の保健指導を養護教諭も入って実施した。愛校作業や植栽活動に取り組み、環境に対する意識や社会性を高めることができた。		養護教諭も入り、継続して保健指導を行う。道徳教育全体計画に基づき、様々な場面や教科の中で自他を大切にすることを育てる。
3	病弱児教育に関する専門性の充実を図り、信頼される学校づくりを行う。	具体的な支援に活かせる事例研究や指導法の工夫など、専門性の向上をめざした校内研究を進める。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	自立活動の実践についての事例研究を行ったことで、全員が積極的に研究会に参加し、活発な意見交換を行うことができた。資質向上のために北病院と連携し、病理研修会等を実施した。相互授業参観では授業改善・工夫し授業力向上を目指した。	A	病弱教育に関わる専門性向上のために、教育だけでなく医療・福祉等の様々な分野の研修会を開催する。異職種参観も定期的に計画し、教科の専門性の向上も目指す。
		行き届いたチーム支援に努めるとともに、地域の関係機関と連携しながら、体験的活動や校外学習の充実を図る。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	学部行事として、宿泊学習や地域の社会福祉村まつりに取り組んだ。個々の状況に応じた参加体制をとり、わらわを設け様々な体験活動を行った。いきいき教育地域人材活用推進事業では外部講師を招聘し3回実施した。普段ではなかなか経験できない貴重な経験をさせることができた。		在籍期間の短い児童生徒が多く、計画や取り組み方が難しい面があるが、校外学習はとて有意味な活動であるので、企画・実践していく。教科としての校外学習も、それぞれの教科で検討していく。また、いきいき教育やボランティアを活用し体験的な学習を増やす。

学校関係者評価	
実施日 (平成31年2月19日)	
意見・要望等	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難しい個別のケースに対応され、素晴らしい教育を行っていると思う。ICTにも取り組み、積極性を感じる。</li> <li>・学校行事等に新しい活動を取り入れ、児童生徒が主体的体験的に学ぶ機会が提供されている。異職種間授業参観の取組は重要であり、継続・発展させていくことを望む。</li> <li>・PCでの学習発表や運動の時間を意識して取り入れている様子など、社会に出ても役立つスキルや身体づくりを考えた授業を行っていることがよく分かった。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診察をとおして、子どもたちの心の豊かさを感じ、よりよい指導が行われていると考える。</li> <li>・キャリア教育の実施内容等について、本校と分校間で情報交換共有を増やし、その系統性・体系生を高めていくことが、より望ましい。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気について積極的に勉強されていて、とても熱心な様子うかがえ良い。</li> <li>・チームワークを向上させるため、またよりよい組織を作るための様々な工夫や調整が行われていると理解する。このような取組(システム)が継続して引き継がれていくための県教委、学校、関連施設の広範なシステムづくりが必要であると考えている。</li> </ul>

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。